

向学館通信

2008・2・25

中学生・高校生には学年末テストの時期。
集中力、持続力をあげて、頑張れ！！

テスト前ですから、多くの生徒が塾へ来て自習で勉強をしています。しかし、自習に来いと言っても、来ない人もいます。成績の上がない人ほど来ません。もっと努力を！

勉強の嫌いな子を「やる気」にさせる方法

勉強が嫌いである理由は、簡単です。要するに、勉強が分からないからです。分からないことを強制的に「勉強しろ」などと言われて、「はい、はい」と答えることは難しいものです。「勉強しなさい」というお母さんの声が、ますます勉強嫌いを促進させるという「効果」もうなずけます。

「分からない」⇒「自信がなくなる」⇒「勉強から逃げたくなる」⇒「親に怒られる」⇒「何もかも嫌になる」・・・といった「悪循環」は、子供たちの心に大きな負担と犠牲を負わせています。

この「悪循環」断ち切るには、勉強で自信をつけてあげるのが一番なのです。そんなにうまくいくのか、と思われるかもしれませんが、しかし、実際に、自信を取り戻した子供たちが、わが塾にはたくさんいます。

たとえば、A君の場合。

当塾へ入ってきたときは、直前の定期テストの成績が、数学30点台、英語も同じくらい、といった点数でした。そこで、点数を上げやすいのは、やはり数学ですから、2～3か月かけて、数学に全力投球しました。そして、次のテスト範囲を想定して、基礎からやり直しをしました。少しずつ分かるようになると、宿題も自分から「次までにここまでやってくる」というような積極性も出てきました。こうした積極性が出ると、もう大丈夫です。その次のテストでは、60点台をとりました。ところが、当人は、75点以上とれていたと思っていたので、結果にはショックだったようでした。(つまらないミスで10点ほど損をしたのです)。しかし、初めて平均点を上回る点が取れ、「やればできる」という自信につながりました。

A君は、それからしばらくして、「英語も、勉強したい」と言い出しました。そして、入塾当時の暗い顔つきとは全く違う、生き生きとした顔に変わりました。自信と誇りを感じさせる顔になって、お母さんの不安も消してしまいました。

この例でも、「分かる」⇒「自信がつく」⇒「他のことにも積極的になる」⇒「明るくなる」といった「善循環」の端緒が、数学という1科目の「分からなさの解消」であった、という事実が重要です。ここに、私たちの重要な使命があると考えています。

「分からせることが下手」とか「さかのぼる学習をうまく組み立てられない」なら、こうした使命が果たせないわけです。ここにこそ、上手な個別指導の意義があると思います。

Bさんの場合。この子は、英語の単語もほとんど覚えていないし、国語力も低く、およそ勉強などしたことがなかったのです。スポーツではかなりのレベルでしたが、勉強はさっぱり、というタイプでした。この人の場合も、数学の得点を一気に70点台に引き上げると、それまで、すべての科目で「勝てない」と思っていた友達より数学の得点が上になり、自信をつかむきっかけになりました。それから、英語や国語にも意欲的に取り組むようになりました。

A君もBさんも、中2の途中から頑張り、無事、高校へ進学しました。こうしたケースは、今いる塾生にも何人もいます。「分からせることの大切さ」を実感しながら、日々努力をしています。

春休みの時期が、自信回復の好機

上の例でみたように、自信をつかむきっかけになるのは、数学の得点アップです。それも、10点や15点などでなく、30点、40点などの大幅な点数アップが、生徒の目の色を変え、「やる気」を本物にするということがわかりました。それまで30点前後であった人が、70点以上になれば、その次も高いレベルをキープしたいと思い、頑張ります。

では、なぜ数学がいいのか。他の科目では、成績を上げるには、相当な時間がかかります。ところが、数学は、とくに各学年の1学期には、比較的やさしいレベルの「計算問題」が中心です。これは、数学の苦手な人でも、さかのぼる学習をきちんとやれば、わりに短期に実力が伸びます。

つまり「短期間に伸びる」というところがミソなのです。勉強嫌いの子は、集中力も持続力もあまり育っていないので、半年も1年もかかるような息の長い勉強では、ついてこないからです。

こうした意味で、**春期講習の時期に集中して、次年度の準備をすることが、勉強嫌いを克服するきわめて有効な方法です。ぜひ、春期講習をご活用ください。**